

WEEKLY REPORT

<本日のニコニコ発表: 吉田俊一委員>

😊 齋藤國春会員
美味しいおいもいただきました。本日は仮欠席で申訳ありません。



<ハイライト米山10月号より>

台湾米山学友会から災害義援金が届きました

9月上旬、日本列島は台風21号と北海道胆振東部地震に相次いで見舞われ、各被災地のインフラは大きな打撃を受けました。台湾米山学友会では9月8日の役員会にて、全会一致で募金活動を決定。約3週間で28万6,500元(約105万円)を集めました。この義援金は、当会を經由して、第2660地区と第2510地区に送られる予定です。同学友会の呉憲璋理事長は「今回の台風と地震による被害に我々は皆、大変驚き、直ちに募金を開始しました。台湾米山会一同、一日も早い被災地の再建と復興を心より祈っております」とのメッセージを寄せてくれました。

<10月24日 世界ポリオデーイベントをライブストリーミングで観よう>

今年のロータリーの世界ポリオデーイベントは、10月24日に米国フィラデルフィアで開催されます。とはいっても、わざわざフィラデルフィアに足を運ぶ必要はありません。フィラデルフィア現地時間の午後6時半から(日本時間の25日午前7時半から)、お使いのパソコンやスマートフォンでライブストリーミング(ネット中継)でご覧いただけます。イベントの録画も、後日 endpolio.org/ja からご視聴いただけます。

今年のライブストリーミングは、日本語、フランス語、ドイツ語、イタリア語、韓国語、ポルトガル語、スペイン語の同時通訳つきでご視聴いただけます。イベントの会場は、アメリカ医学発祥の場所と言われるCollege of Physicians of Philadelphia。米国で最も古い医学系団体でもあります。

イベントでは、世界保健の専門家やロータリーのポリオ撲滅大使を務める有名人らが、ポリオのない世界に向けた目覚ましい進展について語ります。ロータリーのVR(バーチャルリアリティ)動画の最新作「Two Drop of Patience」で主役を務めるペイシェンス・アシムウェさんによる本作品の紹介のほか、ロータリーによるドキュメンタリー「Drop to Zero」(ゼロになるまで)の一部映像が初公開されます。Time誌のシニア編集者であるジェフリー・クルーガー氏は、ポリオ撲滅活動の取材でロータリーとともにナイジェリアに赴いたときの経験を語ります。さらに、今年30周年を迎える世界ポリオ撲滅推進活動(GPEI)の祝賀も行われます。

イベントをライブストリーミングで観る方法
パソコンで(イベント当日)

Google Chromeのブラウザを開き、KUDOのサイトからフォームを入力して「Submit」をクリック
次のページで「Floor」をクリックし、リストからご希望の言語を選択

社会奉仕基金 3,241円 《会報編集委員》大川隆永・野澤新之助・高橋修・森谷充伯

Rotary  2018-2019年度

国際ロータリー 第2790地区 第13グループ

松戸北ロータリークラブ会報



インスピレーションになろう

「四つのテスト」 言行はこれに照らしてから

- 1・真実かどうか
- 2・みんなに公平か
- 3・好意と友情を深めるか
- 4・みんなのためになるかどうか

第2223回 例会 2018年10月17日(水)

- | | | | |
|------------------|---------|-----------|---------------------------------------|
| ■国際ロータリー会長 | バリー・ラシン | ■例会日 | 毎週水曜日12:30より(第1例会18:30) |
| ■第2790地区ガバナー | 橋岡久太郎 | ■例会場 | 流山市前ヶ崎717「柏日本閣」 |
| ■第13G アシスタントガバナー | 野村 充 | ■事務所 | 松戸市八ヶ崎1-11-13 カナイズ・ハイツ101 |
| ■松戸北ロータリークラブ会長 | 高橋 一彦 | ■TEL/FAX | 047-711-5950 / 047-711-5910 |
| ■松戸北ロータリークラブ幹事 | 小澤 直之 | ■Web/Mail | www.rc2790-12.jp / kanji@rc2790-12.jp |

<第2223回 例会プログラム>

12:30	点鐘 ロータリーソング斉唱 【♪我等の生業】	高橋一彦会長
12:33	お客様紹介	大川高明会長エレクト
12:35	会食	
13:00	会長挨拶・報告 幹事報告	高橋一彦会長 小澤直之幹事
13:05	ガバナー補佐挨拶 国際ロータリー第2790地区第13グループ	野村充ガバナー補佐
13:25	社会奉仕基金発表 社会奉仕委員会	大塚精一委員長
13:30	点鐘	高橋一彦会長

<クラブ会長挨拶:高橋一彦会長>

皆様こんにちは。

本日は第2790地区 第13グループ ガバナー補佐 野村充様をお迎えしての4回目となりますガバナー補佐訪問でございます。この後、野村ガバナー補佐よりご挨拶を頂戴し、ホストクラブとしましても後期の活動に向け、心構えをして参りたいと存じますのでご指導の程を宜しくお願い申し上げます。



さて、今月10月28日(日)にホテルニューオータニ幕張において2790地区2018-19年度・地区大会が開催されます。当クラブよりも多くのご参加の回答を戴いておりメールにて登録をさせて頂きました。

私事ではありますが、入会後に初めて地区大会に参加した時には会場の雰囲気やロータリーメンバーが一堂に会している光景に圧倒された事を記憶しております。会員となり数年はロータリーもよく分からず、ただ参加しているだけに留まっておりましたが最近ではやっと、大会の意味やロータリーの現状を知るには大変に勉強になる会合であると感じております。先日改めて地区大会とは何だろうと思いましたが、ロータリー関連の資料を拝見していると、基本的な内容ですが優しく表されている文章がございましたので紹介をさせて頂きます。

『地区大会はクラブ役員や委員会役員だけではなく、クラブ会員やその家族が一堂に会する場であり、そこでは親睦を楽しんだり、感動的な講演を聴いたり、ロータリー会員であることの意義を高めるための話し合いを行います。地区大会に出席した人は、誰もがそこで新しい経験と洞察を得て、知己を開拓することができるため、ロータリアンであることが以前にも増して価値あることだと実感できるでしょう。ロータリー地区は毎年地区大会を開催します。これは大変重要な会合であり、R会長の選んだ知識豊富なロータリアンが会長代理としてこの会合に出席し、講演を行います。プログラムには常に、素晴らしい余興行事や、興味深い討論、感動を与えるような内容が含まれます。地区大会に出席して得られる思いがけない恩典のひとつに、打ち解けた雰囲気の中で所属クラブの会員とさらに親しむ機会が得られることがあります。地区大会での数時間の親睦から、末永い友情が育まれていくのです』と資料の中に記載されておりました。

当日ご参加の会員様におかれましては各々で大会よりロータリーを感じ取られる事と存じますが、今後の松戸北クラブへの活動のヒントがございましたら、クラブ内に反映して頂ければと思っております。参考文章の中にも「所属クラブの会員とさらに楽しむ機会が得られることがあります」とございますので、28日当日は夕刻より地元にて松戸北クラブ流に親睦会を行います。大会を欠席なさる会員さまもご都合宜しければご参加して頂きたく思います。

<第13グループガバナー補佐挨拶:野村充様>

皆様、こんにちは13グループガバナー補佐の野村です。ホームクラブの北ロータリークラブより5年に一度の当たり年で13グループガバナー補佐となり、7月から5ヶ月を経ようとしております。この間、就任の挨拶、ガバナー訪問、情報研修会での5クラブ合同例会の開催、2回目の他クラブ訪問と消化して参りました。



その中で先月開催されました情報研修会にはホームクラブの皆様には駐車場係等の下働きをして頂きありがとうございました。特に森谷幹事にも地区事務所、地区研修委員会の方々との連絡、協議、メールのやり取り等でお助け頂き、クラブ内では高橋会長、小澤幹事が良き仲立ちとして皆様の助けを借りながら頑張ってもらって、丁度車の両輪の如く噛み合っている様な気が致します。

残り大きな行事としましては年明けの渡辺実行委員長にお願いしているIMの開催、石井実行委員長、長島副委員長、鈴木会員にお願いしている藤ヶ谷での5クラブ対抗ゴルフを残すのみですが、ご存じのようにガバナー補佐は地区とクラブを結び繋ぐ直接の対話を通して活性化の手伝いをして、何かあれば地区事務所に挙げるという役割を担っておりますので本日の発表となりました。

13グループ内事としては私の方からの報告と致しましては、今月初めに中央クラブと西クラブさんとの橋岡ガバナーの公式訪問の合同例会、協議会が開催されました。

以上、松戸5クラブの公式訪問はすべて終了致しましたが、橋岡ガバナーより松戸クラブ、東クラブを筆頭にいずれのクラブとも素晴らしいとの高い評価を頂き「さすが3名ものパストガバナーを輩出した第13グループ」とのお言葉を頂きましたことを併せて報告申し上げます。

また、来週には地区大会もございますので橋岡ガバナーも皆様の御出席を楽しみにしております。以上、私からの挨拶とさせて頂きます。

有り難うございました。

■ロータリーの奉仕哲学「超我の奉仕」Service above self■
このServiceの意味は人のためにつくすこと。ビジネスでもServiceの心がけはシェルドンの言葉を借りれば「永続的な顧客を得る道」であり、信用を増して繁栄への道につながる。